



令和7年4月22日

福岡県内経済情勢報告

令和7年4月

財務省福岡財務支局

〔問い合わせ先〕

財務省 福岡財務支局 経済調査課

電話 092-411-9038

福岡県内経済情勢報告

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（7年1月判断）	今回（7年4月判断）	前回比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	→

（注）7年4月判断は、前回7年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（7年1月判断）	今回（7年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している	物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している	→
生産活動	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

設備投資	6年度は増加見込み	6年度は増加見込み	→
企業収益	6年度は増益見込み	6年度は増益見込み	→
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	→
輸出	前年を下回っている	前年を上回っている	↗

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善や、各種政策効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっている。加えて、物価上昇の継続の影響等も、景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に一層注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している」

百貨店販売は、インバウンド需要が落ち着くなど、伸びの鈍化がみられるものの、ラグジュアリーや化粧品が引き続き堅調なことから前年を上回っている。スーパー販売は、買い控えがみられるものの、価格転嫁の浸透もあり前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、都心部におけるインバウンド需要等により前年を上回っている。乗用車販売は、普通車、小型車、軽乗用車いずれも認証不正問題で停止した車種の生産再開に伴う増加等により前年を上回っている。ドラッグストア販売は、日用品等が好調のほか、新規出店の効果もあり前年を上回っている。家電大型専門店販売は、冬物家電等の販売が好調だったことから前年を上回っている。ホームセンター販売は、寒波の影響で園芸用品等の販売が低調だったことから前年を下回っている。旅行取扱高は、一部に物価高騰の影響等もみられるものの、前年を上回っている。

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械の自動車は、昨年度の高水準の生産の反動等があるものの、足下持ち直しつつある。はん用・生産用機械は、自動化・省力化等に向けた投資需要は一定程度あるものの、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。電子部品・デバイスは、在庫調整の進展に加え、一部で需要の回復がみられるなど、足下持ち直しつつある。鉄鋼は、建築資材の需要等が伸び悩んでおり、横ばい圏内で推移している。

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、おおむね横ばいとなっている。新規求人数は、前年を上回っている。

■ 設備投資 「6年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年1-3月期

6年度は、製造業は前年比53.8%の増加見込み、非製造業は同12.2%の増加見込みとなっており、全産業では同20.9%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「6年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年1-3月期

6年度は、製造業は前年比19.3%の減益見込み、非製造業は同13.6%の増益見込みとなっており、全産業では同3.9%の増益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

新設住宅着工戸数でみると、持家及び給与住宅が減少しているものの、貸家及び分譲住宅が増加していることから前年を上回っている。

■ 輸出 「前年を上回っている」

輸出(円ベース)は、前年を上回っている。なお、輸入(円ベース)は、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(7年1-3月期)の景況判断BSIでみると、7年1-3月期は「下降」超となっている。先行きについては、7年4-6月期は「上昇」と「下降」が均衡の見通しとなっている。